

帳票番号: 品 01-1
 管理番号: 7010500
 発行日: 2016年11月10日
 制定日: 2008年7月2日
 改訂日: 2014年11月4日

安全データシート(SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名 **TECHNO 2石ラッカー**

会社名: ダンケミカル株式会社
 担当部署: 茨城工場 品質保証課
 住所: 茨城県常総市大生郷町6138-7
 電話番号: 0297-24-1051
 F A X : 0297-24-1055
 緊急連絡先: 0297-24-1051

2. 危険有害性の要約

ラベル要素
 シンボル

炎 健康有害性 感嘆符 環 境

注意喚起語

危 険



物理化学的危険性及び健康・環境有害性

GHS 分類	分類結果	危険有害性情報
引火性液体	区分3	引火性液体および蒸気
急性毒性経口	区分5	飲み込むと有害のおそれ
急性毒性経皮	区分4	皮膚に接触すると有害
急性毒性吸入	区分4	吸入すると有害(気体、蒸気、等)
皮膚腐食性/皮膚刺激性	区分2	皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A	重篤な眼への刺激
呼吸器感作性	区分外	呼吸器感作性に関する情報なし
皮膚感作性	区分外	皮膚感作性に関する情報なし
生殖細胞変異原性	区分外	生殖細胞変異原性に関する情報なし
発がん性	区分2	発がんのおそれの疑い
生殖毒性	区分1B	生殖能または胎児への悪影響のおそれ
特定標的臓器/全身毒性(単回投与)	区分1	臓器の障害
特定標的臓器/全身毒性(反復投与)	区分1	長期又は反復暴露による肝臓の障害
吸引性呼吸器有害性	区分1	飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ
水生環境有害性(急性)	区分1	水生生物に非常に強い毒性
水生環境有害性(慢性)	区分外	水生環境有害性(慢性)に関する情報なし

3. 単一製品・混合物の区分: 混合物 成分及び含有量

化学名(成分)	C A S . N o	化審法番号	含有量(%)
イソブタノール	78-83-1	2-3049	5~10
酢酸Nブチル	123-86-4	(2)-731	20~30
ブチルセロソルブ	111-76-2	2-407	5~10
キシレン(異性体混合)	1330-20-7	(3)-3	30~40
エチルベンゼン	100-41-4	(3)-28	20~30

労働安全衛生法通知対象物質			PRTR法指定物質		
No.	物質名	濃度	物質名	物質番号	含有量(%)
477	ブタノール	5	キシレン	1-80	39
181	酢酸ブチル	25	エチルベンゼン	1-53	26
79	エチレングリコールモノノールマル-ブチルエーテル	5			
136	キシレン	39			
70	エチルベンゼン	26			

4.応急処置

異なる暴露経路、すなわち、吸入、皮膚や眼との接触、及び経口摂取に従って細分された必要な措置

眼に入った場合

- ・直ちに大量の清潔な流水で15分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗うこと。
- ・出来るだけ早く医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

- ・付着物を布にて素早く拭取る。
- ・大量の水及び石鹼又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。
- ・外観に変化がみられたり、痛みがある場合には医師の診断を受けること。

吸入した場合

- ・蒸気、ガスを大量に吸込んだ場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移動し、温かく安静にする。呼吸が止まっている場合には人工呼吸を行う。嘔吐物は飲み込ませないようにする。直ちに医師の診断を受けること。
- ・該当SDSや容器のラベルを医師に示して診療を受ける

飲み込んだ場合

- ・誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
- ・嘔吐物は飲ませないようにする。

5.火災時の措置

適切な(および不適切な)消火剤

- ・水[-] 炭酸ガス[○] 泡[○] 粉末[○] 乾燥砂[-]

化学品から生じる特定の危険有害性

- ・有害燃焼生成物

消火作業用の特別な保護具と予防措置

- ・適切な保護具(耐熱性着衣など)を着用する。
- ・可燃性の物を周囲から、素早く取り除くこと。
- ・指定の消火器を使用すること。
- ・水を消火に用いてはならない。

6.漏出時の処置

人体に対する予防措置、保護具および緊急時措置

- ・作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を使用する。

環境に対する予防措置

- ・乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させ回収する。大量の流出には盛土で囲って流出を防止する。
- ・河川等へ排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込めおよび浄化方法と機材

- ・漏出物は、密閉出来る容器に回収し、安全な場所に移す。
- ・付着物、廃棄物等は、関係法規に基づいて処置をすること。
- ・付近の着火源・高温体及び可燃物を素早く取り除く。
- ・着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
- ・衝撃、静電気で火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

安全な取り扱いのための予防措置

- ・ 換気の良い場所で取扱う。
- ・ 容器はその都度密栓する。
- ・ 周辺でスパーク、高温物の使用を禁止する。
- ・ 静電気対策のため、装置等は接地し、静電気器類は防爆型(安全増型)を使用する。
- ・ 工具は火花防止型のものを使用する。
- ・ 使用済のウエス、カス等は廃棄するまで水に着けておく。
- ・ 皮膚、粘膜、又は着衣に触れたり、目に入らぬよう適切な保護具を着用する。
- ・ 取扱い後は手・顔などをよく洗い、休憩所などに手袋等の汚染保護具を持ち込まないこと。
- ・ 密閉された場所における作業には十分な局所排気装置を着け、適切な保護具を着けて作業すること。
- ・ 直射日光を避けること。
- ・ 換気の良い冷暗所に保管する。
- ・ 火気、熱源から遠ざけて保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

適切な工学的管理

- ・ 取扱設備は防爆型を使用する。
- ・ 排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにすること。
- ・ 液体の輸送、汲み取り、攪拌などの装置についてはアースを取り付けるように設備すること。
- ・ 高濃度となる作業所内では、密閉された装置、機器または局所排気装置を使用しなければ取り扱ってはならない。
- ・ 取扱い場所で使用する電気機器のスパーク等に充分注意をし機器類は静電気対策を構じる。
- ・ 密閉場所(タンク内部、室内、床下等)で作業する場合には密閉場所、特に底部まで十分に換気できる装置を取付ける。

個人用保護具などの個人保護措置

呼吸器系の保護

- ・ 有機ガス用防毒マスクを着用する。
- ・ 密閉された場所では送気マスクを着用する。
- ・ その有害性物質に対して適切な保護の出来るマスクを着用する。

目の保護

- ・ 保護メガネを着用する。

皮膚の保護

- ・ 有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。

9. 物理及び化学的性質

外 観	液 体	色	無色透明液体
臭 気	溶剤臭	凝固点(°C)	-30 °C以下
P	-	沸点範囲(°C)	初留 106
H	-		乾点 173
引 火 点 (°C)	23.5	発 火点(°C)	244 °C以上
爆 発 限 界 (下限)(vol%)	1	比 重	0.872
爆 発 限 界 (上限)(vol%)	10.6	蒸 気 密 度	4 (空気=1)
蒸 気 圧 (Pa)	1730	水に対する溶解性	不 溶
水に対する溶解性	不 溶	自然発火温度	情報なし
n-オクタノール/水分配係数	データなし	分解温度	情報なし

10. 安全性及び反応性(危険性情報)

化学的安定性

保管条件 (温度・光)

- ・ 常温では反応性はない

危険有害反応性の可能性

その他の危険性情報

- ・ 特に情報は有していない。

避けるべき条件（静電放電、衝撃、振動等）

- ・ 直射日光を避ける。
- ・ 周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
- ・ 衝突を避ける。

混触危険物質

- ・ 第1類 酸化性固体(塩素酸塩類等)及び第6類 酸化性液体(過酸化水素類等)
混触後一定時間を経過してから急激に反応がおこり、発熱、発火や爆発に至る可能性がある。

危険有害性のある分解生成物

- ・ NO_x CO₂が発生する。

11.有害性情報

可能性の高い暴露経路(吸入、経口摂取、皮膚及び眼の接触)に関する情報

組成物質に関するその他情報

- ・ イソブタノール 吸入すると急性の有害のおそれがある。
- ・ 酢酸Nブチル 吸入すると急性の有害のおそれがある。
- ・ ブチルセロソルブ 吸入すると急性の有害のおそれがある。
- ・ キシレン(異性体混合) 飲み込むと急性の有害のおそれがある。
- ・ エチルベンゼン 吸入すると急性の有害のおそれがある。

短期及び長期暴露による遅延及び急性影響ならびに慢性影響

組成物質の有害性及び暴露濃度基準

物質名	管理濃度 (ppm)	許容濃度(ppm)		その他の有害性
		日本産業 衛生学会	ACGIH TWA	
イソブタノール	50	50	50	粘膜障害作用
酢酸Nブチル	150	100	100	粘膜障害作用
ブチルセロソルブ	25	25	25	粘膜障害作用
キシレン(異性体混合)	50	50	50	神経障害作用
エチルベンゼン	20	50	20	神経障害作用

(注:空欄は情報が無い、該当しないことを意味する。)

製品に関する有害情報

- ・ 製品としての安全性試験は行っていない。

12.環境影響情報

生態毒性(利用可能な場合水生および陸生)

- ・ 急性……… 水生生物に非常に強い毒性
- ・ 慢性……… 水生環境有害性(慢性)に関する情報なし

分解性・残留性

- ・ 分解性…… 良分解性
- ・ 濃縮性…… 該当せず

生体蓄積性

- ・ データなし

土壤中の移動度

- ・ データなし

その他有害影響

- ・ 漏洩した時や廃棄の際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いには注意をすること。

13.廃棄上の注意

廃棄残留物の記述とその安全な取扱いに関する情報

- ・ 容器、機械装置等の洗浄した排水等は地面や排水溝へそのままながさないこと。
- ・ 排水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び関係する法規に従って処理を行うか、委託すること。
- ・ 廃液は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に適切な処理を委託する。

